

昌壽院 おてらだより 第8号

曹洞宗 昌壽院
〒621-0814
亀岡市三宅町 95
TEL 0771-22-2350



西国三十三番札所・善峯寺の観音堂前にての一枚。次男の至道も参加させていただきました。

「梅花流 奉詠の旅」 よしみねてら 善峯寺 楊谷寺 あじさい散策

令和5年6月15日(木)に「梅花流 奉詠の旅」を行いました。昌壽院の梅花講の講員さんの他、亀岡のお寺の奥さんにもご参加いただきました。コロナ禍において中止が続いていたので、久しぶりの開催となりました。

今回は、西国三十三霊場二十番札所「善峯寺」と柳谷観音の愛称で知られる「楊谷寺」にお参りさせていただきました。

特に、善峯寺では、観音堂で、梅花流詠讃歌と西国三十三番のご詠歌を奉納しました。

掃部光昭ご住職からお寺の歴史についてお話を聞かせていただき、境内も丁寧にご案内いただきました。

善峯寺では約20年ほど前に裏山を開墾して、



善峯寺・観音堂にてご詠歌の奉納奉詠



天然記念物「遊龍の松」樹齢600年の五葉松



柳谷観音「楊谷寺」

あじさいを植えたそうです。今では素晴らしい花が山の斜面に咲き誇っています。高台からの景色は絶景でした。
午後を訪れた、「楊谷寺」もあじさいで有名なお寺です。特に手水鉢に花を浮かべる「花手水」を始めたお寺だそうです。SNSでの情報発信にも力を入れておられ、若い人の姿も多くありました。今回は、西山三山のうちの二ヶ寺にお参りでき、大変充実した旅となりました。

西豎町嶺樹院 晋山式 弁事役をつとめました

令和5年5月20日（土）～21日（日）に嶺樹院において晋山式が挙行されました。長男 玄樹も弁事という役をいただきました。今回で三度目の配役。ちなみに住職は一度も経験したことはありません。

中学生になり、ヘアスタイルも気になる年頃です。丸坊主に抵抗はあったようですが、きれいに丸め、しっかりとつとめることができました。ありがとうございました。



嶺樹院の山門前にて。法要を終えてにこやかな表情。



供養すること 力をいただく

マスクをつけずに過ごす時間が増えてきました。思い返すと感染拡大が始まった頃は、世の中が不安でいっぱいでした。コロナ感染症によって亡くなると、感染拡大を防ぐために遺族が立ち会うこともなく茶毘にふされ、死に顔を見ることさえできない、ということがありました。見舞いにも行けず、遺骨となって帰宅…。志村けんさんなど著名人が亡くなった時にその様子が報じられましたが、日本だけでなく、世界各地で同じようなことが起こっていました。

先日、新聞記事で「あいまいな喪失」という言葉を知りました。災害などで行方不明になり、その人が本当に失われたかどうかはつきりしないまま、その死を受け入れる必要がある場合、悲しみや喪失感が長引き、複雑になることがあるといえます。先ほどのコロナ禍における死別も、心理的には「あいまいな喪失」の一例にあたります。

記事の中で、コロナにより父親を失った娘さんが「感染防止のために通夜や葬儀ができなかった。棺を開けて父の顔を見ることができなかった。一周忌の法要の際に不思議と涙が流れた。『心がすっと着地したような感覚。信心深い方ではないけれど、儀式つて必要なんだなって』」とその気持ちを語っていました。

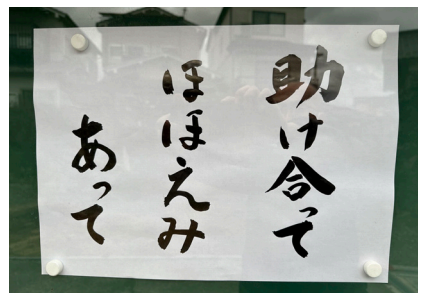
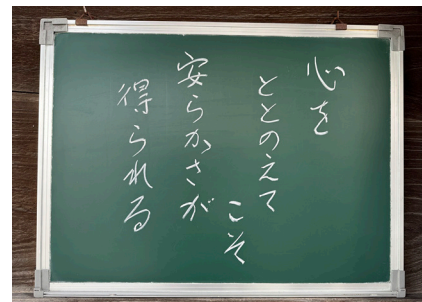
「あいまいな喪失」に限らず、私たちは、葬儀などを通して大切な人との別れをすこしずつ受け入れていくのだと感じています。実際に遺族のそのような様子に接し、強く思うことです。葬儀や法事は、亡き人の供養のために行うのですが、同時に私たちにとって心の癒しとなり、喪失感や悲しみをやわらげる手助けとなります。

今年も、ようやく人が集えるお盆となりそうです。ご先祖さまの供養、お盆という伝統行事を営むことで、私たちも力をいただくことができます。

どうぞ、ご家族皆様とご先祖さまや亡き方をお迎えいただき、おだやかなお盆をお過ごしください。 住職 大井龍樹 合掌

伝道掲示板のご紹介

お寺の山門（正面）と裏門（駐車場）の掲示板に毎月言葉を掲示しています。山門は東堂（前住職）、裏門は住職が担当しています。



昌寿院 孟蘭盆会

山門大施餓鬼法要

本年もお盆の施餓鬼法要を営みます。初盆以外でご供養をお申込みの方は事前にお知らせください。

日時 令和5年8月16日（水）

午前11時から

